

[アーキテクトキャラバン] 一家をつくる専門家の集まり-

◆ 地産材の良さを知る ～身近にある材を選ぶⅡ～

松村 泰徳

今冬、木塀の設計をする機会がありました。ロケーションは文化住宅の敷地内、南北にそれぞれ建てられた内の南棟を解体したため、残る北棟の入居者の生活が、道路からの視線にさらされることになり（間取りは2K、どうしても共用廊下に生活の一部がはみ出してしまおう！）、それに配慮して計画されることになったそうです。これまでも南北間の路地に面していたわけですが、南棟がなくなったことで路地は消滅し殺風景な空き地となり、生活環境のバランスが崩れてしまったのです。実際、入居者の意見も分かれ、”生活が丸見え、何とかしてほしい！”逆に”目の前に塀を建てられると、うっとうしい！”など意見が分かれたようです。

さて、どんな塀でいくか・・・今や定番のアルミ製品？それとも、視線を完全に遮るトタン塀？きびしい予算の中、いろんな事柄を考慮した結果、通風と採光に配慮し、適度に敷地・道路双方の様子（防犯の事も考慮）がうかがえる目透かしの木塀にすると調和もとれて良さそうです。地産地消の考えのもと、地元のヒノキ・スギ・竹を使うよう工務店に指定しました。奈良県内で木造住宅を建築するにせよ、だまっておくと国産材であっても、なぜか膨大なエネルギーを使ってはるばる東北や四国・中国地方からやって来ることが多々あるからです。また、地産材を使うメリットとしては製材所で、直接どの部位を使うか材を見てやり取りが出来るし、加工の様子も確認する楽しみもあり（あくまで仕事ですが・・・）、例えるなら「魚市場のマグロの解体ショー！」、「精肉店では色艶を見てバラやロースを注文する。」といったところでしょ。 (笑)

冗談はさておき、「食」に精通している一般人は、食の多様化と飽食で増加傾向にあるように思いますが、「住」における木材への理解（先人が日常的に知り得ていたこと）に富んだ人は、かなり少数派となり、少し寂しく感じます。

木塀の意匠としては、文化住宅の素朴さを感じるよう、面皮付きのスギ板を挽いてもらい、木目の映える塗料でお化粧をし、支柱のヒノキ材は野趣味を感じる節入りの素地使いとして脇役に回っていただきました。杉板の間には竹を目透かし材として組込み、数奇屋の濡縁の様な遊びを入れてみました。

完成後の入居者が感じた印象はあえて聞いていません。設計者の意図は、すぐには伝わらないこともあるからですが、しばらく時間をおいてから訪れ、是非とも意見をお伺いしたいと考えています。



木塀が建物と道路間の緩衝材の役割を果たす。



原木が一枚づつ、板材へと挽かれていく様子。



製材所のオヤジさんとのやり取りも楽しみの一つ。



板の張り方や、竹の継ぎ方にも気を配った。

「住まいるカフェ」

～高気密・高断熱住宅の体験～

寒くなる前に知り合いの建築家実践する高気密・高断熱の家づくりが体験できた。カナダの輸入住宅の2×4やハウジングメーカーなどでよく高気密・高断熱の住宅がよく紹介され、最近では、当たり前のような感じである。高気密高断熱とエコ住宅が、同じ規格の住宅と受け止められていないのではないだろうか？在来木造住宅を高気密高断熱仕様で設計することは、それほど難しくないが、実際の現場で、ディテール（納まり）を見て、工事途中での断熱性能を体験できた。完璧な高気密高断熱の床・壁・天井の納まりを目の前にして、隙間なく防湿フィルムを室内側に敷き込み、コンセントや換気口周りなど全ての隙間となる部材に高度な気密性能を確保させる工事である。見学会当日の10月末でも長袖の上着が必要な時期に玄関扉が開いたままでも、室内が暖かいのである。高気密高断熱は、省エネ住宅の基本で、小さな暖房器具だけでも浴槽のお湯はりのように室内の空気が自然に対流し、部屋全体が温めるのが高気密高断熱ということである。ちなみに断熱工事費は坪あたり+2万円程度で可能なので、気軽にご相談頂ければ幸いです。(ハコビ家)



◆ 僕らの秘密基地 発見！

辻 祐司

2010年11月某日、それは突然私の目玉に飛び込んで来たのです。小学校の角を曲がると、急に・・・。
廃墟？ 民家？ 不法占拠？

大阪市東淀川区淡路のまちを少し退屈気味に歩いていた私に対して、それは唐突に現れたのです。（まるで淡路のまちが退屈な私に怒りを示したかのよう。）

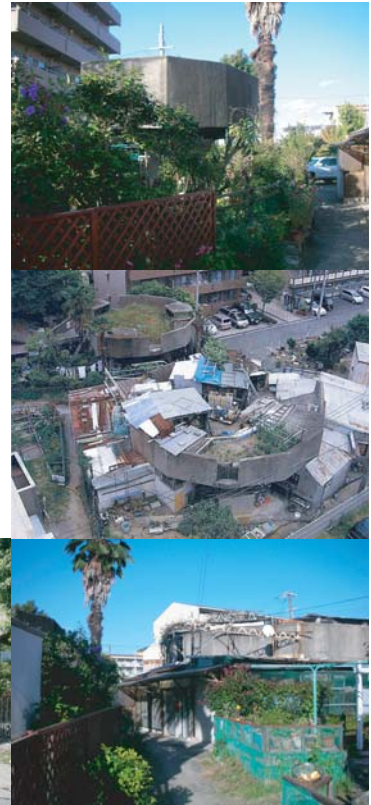
近所で聞いてみますと、それは昭和19年当時、内地空防に備え旧陸軍によって建てられた高射砲台の跡地で、鉄筋コンクリート造の台座に高射砲を設置しB29を撃退しようとするものでした。元は6基あり、その内4基が残りましたが、それも都市計画道路建設の為、取り壊される運命にあるらしいのです。

砲台を屋根代わりに人々が住みつき、廻りには庭園も造り現在でも住まわれています。何か懐かしいような現代の住まいでは失われてしまったものを、ここの民家を感じ、何だかわくわくドキドキしながら見学させて頂きました。言うなれば、そこには廃墟のような美しさがあり、住人のエネルギーがあふれ出し、また僕たちが子供時代に造った秘密基地のにおいが漂っているのです。

道路建設反対！ これは、残して欲しい。この空気をそのままに！

砲台は大阪の歴史遺産として、子供たちに戦争を伝える為の公園として整備し（聞くところによると、ここの住人に元海軍水兵の方がいらっしゃり、真珠湾・ミッドウェイ海戦にも参加され、奇跡的帰国後には原爆投下後の広島で救護活動をされていたという。）またその公園では、子供たちが自由に秘密基地を造れるような冒険遊び場として、整備出来ないでしょうか。

皆さん！ 損はさせません。西淡路5丁目、淡路小学校東に位置する、高射砲台跡地に行ってみて下さい。



◆ 編集後記

井戸田 精一 井戸田精一アトリエ

E-mail: ateleir@gaia.eonet.ne.jp
URL: <http://www.eonet.ne.jp/~ateleir>

年末になって、来年の楽しい話も出てきて仕事のやりがいを感じています。今年も皆様にお力を貸して頂き、家をつくったり、治したりできました。来年もよろしくお願い致します。（ハコビ屋）

辻 祐司 辻 建築設計室

E-mail: 0805tsuji-ken@ares.eonet.ne.jp

アーキテクトキャラバンなるグループを仲間と立上げ丸一年が経過しました。嬉しいものです。季刊紙も、第4号、冬号の発刊です。（これを見られる方はきっと新年を迎えておられると思います、そんな意味では、春号が正解でしょうし、挨拶のあけましておめでとうございます。が抜けていますが・・・）来年（今年）は季刊紙の充実、勉強会の企画を準備しております。来年（本年）も、どうぞ宜しくお願いします。

橋爪 恒平 atelier nest
-アトリエネスト-

E-mail: atelier_nest@ab.auone-net.jp

数年おきぐらいにしか、風邪をひかない私ですが、今年はずでに2回もひいてしまいました。。。例年に比べ今年はグッと冷え込むそうで、夏場のこれでもかというぐらいの暑さとのギャップが大きくて、身体が付いていけてません。。。皆さんもお気を付けて。

松村 泰徳 松村泰徳建築事務所

E-mail: contact@ym-arc.jp
URL: <http://www.ym-arc.jp>

先日、木造住宅の耐震診断依頼がありました。正に人でいうところの健康診断ですが、早期発見・早期治療は人だけではありません。耐震改修工事の設計監理を行った時、外壁撤去中にシロアリを発見！小屋裏まで上がっていることがわかりました。駆除後、食害部を取替えて工事は無事終了！建物の一命を取り止めることができました。建築士は建物のお医者さんでもあるのです。あなたのお家も健康診断いかがですか？

山田 慎輔 山田慎輔建築設計室

E-mail: ya-mada1120@eco.ocn.ne.jp

紙面をご覧の皆様、来年も宜しくお願い申し上げます。

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを、広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。

また、住まいの相談会、勉強会なども企画して参ります。ご意見・ご感想・相談等御座いましたら、右記事務局までご連絡頂きます様宜しくお願い致します。

編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

大阪事務局／辻 建築設計室
大阪市中央区大手通1丁目3-7
日宝大手ビル4F
TEL : 06-6949-8090
FAX : 06-6949-8074
E-mail: tsujiken-tenma1007@hop.ocn.ne.jp

奈良事務局／松村泰徳建築事務所
奈良県葛城市北花内261-5
松村ビル2F-WEST
TEL : 0745-69-5938
FAX : 0745-60-6524
E-mail: contact@ym-arc.jp
URL : <http://www.ym-arc.jp>

Copy right 2010 Architect Caravan All rights reserved